社会

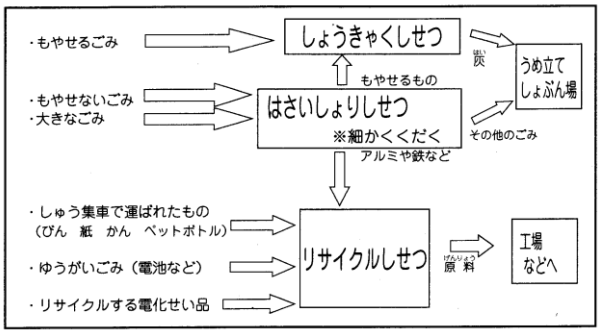
平成２２年度埼玉県小・中学校学習状況調査において、県・南部管内ともに正答率（%）が低かった問題

◇小５社会「ごみを増やさない工夫として、自分たちにできることを考える」問題

→ 4（3）県２２．４%、南部管内２２．５%

4　かおりさんは学校で、自分たちのまちのごみのしょりについて学習しました。あとの問いに答えましょう。

図　「いろいろなごみのゆくえ」



（3）かおりさんは、ごみのしょりについて学習したことをいかして、わたしたちにできることを考えました。次の［　　］にあてはまる言葉を書きましょう。

「ごみを［　　］ために、きちんと種類ごとに分けて出す。」

◆指導上の改善ポイント

正答は、「リサイクルする」「しげんとして使う」「むだにしない」等である。「ごみをふやさない工夫として、自分たちにできることを考えることができる」力を問う問題となっている。

学習にあたっては、学習内容を自分たちの身近なところ（生活の場）に結びつけることが大切であり、実践をともなった理解を図りたい。同時に、学んだことを生活に生かそうとする目的をもった学びとすることが重要である。「リサイクル」や「分別」という言葉に対する知識・理解だけでなく、見学や調査、資料を活用して調べる等の活動を重視し、地域に対する意識を高め、自らも廃棄物の適切な処理や再利用等に協力しようとする態度を育てるように配慮することが大切である。

また、日常の授業を通して、調べたことや考えたことを表現する活動を重視したり、表現することを通して考えさせたりし、思考力・判断力・表現力の育成を継続して育成していくことが不可欠である。そのために、発達段階に応じた、言語活動の充実を図っていくことが重要である。特に、第３学年及び第４学年においては、調べたことや地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えたことを、相手にも分かるように表現することができるようにすることが大切である。

1　自分の生活や自分自身との関わりで見たり考えたりすることを重視する指導

指導事例：「リサイクル社会のため、自分ができること」というテーマで話し合わせ、どうしたらリサイクル社会に役立つかという視点で、意見交換をさせ、考えが深められるようにする。

2　言語活動の充実を図る（学んだことを振り返り、自分の思いや考えを表現する）指導

指導事例：学習カードに「これから、わたしは、・・・」の書き出しに、自分ができることをまとめる。

平成２２年度埼玉県教育課程指導資料Ｐ２０参照

3　図や絵、写真、文字等を使って自分の言葉でまとめる力を育てる指導

指導事例：図や絵、写真、文字等を使って、ゴミ処理全体の流れを理解し、ゴミの種類によって処理する施設が異なることや、多くの人々が協力して処理を行っていることに気付かせるようにする。

平成２２年度埼玉県小・中学校学習状況調査報告書Ｐ２７参照

※記述による解答の問題においては、無記入の割合が高い、日常的に書くことの指導が重要である。

※この単元の学習においては、「法やきまり」の視点から指導することも求められている。